わたしの学校経営

地域と共に歩む特別支援学校を目指して

和知　学・福島県立相馬支援学校校長

本校は、福島県の浜通り地域の北部に位置する相馬地方唯一の知的障害特別支援学校である。2020年4月に相馬市から南相馬市に校舎を新築移転した。学習指導要領改訂のタイミングと同時期の移転を好機と捉え、ソフト面についても見直しを進めた。

目標を常に意識

(1)「資質・能力」の育成を具現化するための学校教育目標の見直し

ソフト面の整備については、学校教育目標を含めた教育課程の編成に重点を置いた。特に、本校の学校教育目標は、1971年の創立以来見直されてこなかったことから、新指導要領の視点を盛り込むべきと考えた。学校教育目標を考えるに当たって、教員へ「子供たちにどのような資質・能力を育成したいのか」について、アンケートを実施した。その後、校内に「新しいカリキュラムを創造するプロジェクトチーム」を編成し、学校教育目標の見直しを含めた教育課程の抜本的な見直しについて検討を指示した。

プロジェクトチームは、指導要領に造詣が深い教員を座長に据え、教務主任、各学部主事、研修主任、教育相談主任、教頭で構成した。立場を超えた議論を展開し、半年間で計7回協議を重ね、指導要領解説などを根拠にして「相馬支援学校の育成を目指す資質・能力」を明確にするとともに、新たな学校教育目標の提案、各種書式の改善、教育内容の見直しを行った。

なお、育成を目指す資質・能力については「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「自立活動」の4観点で整理し、具現化するための新たな学校教育目標を設定した。このプロセスは、指導要領解説で示された、教育目標を設定する際に踏まえるべきポイントとして「学校として育成を目指す資質・能力が明確であること」の一文を根拠として進めた。

次に、全教職員が学校教育目標を常に意識できるようにするため、学校経営の理念を1本の木に見立ててデザイン化し、校長室、職員室、各学部の入り口にA1判のパネルで掲示した。

(2)学校教育目標を具現化するための人材育成

本校教員の年齢構成は若く、新採用や2校目の教員が多数を占めているが、いずれも学ぶ意欲が高い。伸び代の大きい若手教員の人材育成の中核は研修である。その中でも、実践と直結している授業研究会の活性化が大切であると考え「授業者が頑張る授業研究会」から「授業を支える授業研究会」への転換を試みた。

言い換えれば、指導型から支援型の授業研究会へのモデルチェンジである。授業研究会では、授業で見られた子供の学びの姿を根拠とした意見交換を行った。このような取り組みを行うことで、授業研究会そのものが、指導と評価の改善を図る場となった。

また、授業研究会を活性化させるためには、ファシリテーター（会議の進行役）の役割が重要と考え、組織学を専門とする外部講師を招聘（しょうへい）した研修会を実施した。ファシリテーターが、教員同士の学びを促進させることにより、同僚としての意識を育み、その授業で学んでいる子供たちの姿を焦点化させることができるようになってきた。

このような取り組みを重ねることで、参加する教員から建設的な発言が出され、教員同士の学び合いが活性化してきた。議論に積極的に参加する人材が育ち、校内で教員一人ひとりがカリキュラムマネジメントの集大成でもある教育課程編成作業等を自分事として捉え、主体的に取り組む姿につながったと考える。

今後も、このような地道な取り組みを通して、これからの時代を生き抜く子供たちに必要な資質・能力を確実に育みながら、地域と共に歩み、信頼される学校づくりを目指したい。

■2021年（令和3年）10月15日　内外教育　第3種郵便物認可